

(平成29年 8月分)

種 類	市況の概況
(水産物部の動向) 水 産 物 全 般	<p>8月の水産物の総入荷量は、台風の影響や東日本での天候不順などにより、前年同月と比べ、鮮魚は前年並みで、冷凍魚、加工水産物ともに入荷量が下回り、全体で4%下回った。</p> <p>総取扱金額は、前年同月と比べ、鮮魚は前年並みで、冷凍魚、加工水産物ともに減少しており、全体で4%下回った。</p> <p>9月は、秋の漁に切り替わる時期で、西日本海側では底曳き網漁が解禁となり、かれい類を中心に、にぎす、たら、あんこう等の入荷増加が期待される。</p>
(区分別の動向) 鮮 魚	<p>8月の鮮魚は、入荷量、単価ともに前年同月並みであった。</p> <p>品目別には、かつお、はも(遠)、さわらは入荷量が上回り、単価は下回った。まだい(養成)、さけ、たこは入荷量が下回り、単価は上回った。</p> <p>9月は、さんま、さば、かますなどの入荷が増え、脂がのって美味しい時期となる。また、秋さけ漁も始まり、味覚の秋が到来する。</p>
冷 凍 魚	<p>8月の冷凍魚の入荷量は、前年同月と比べ7%下回り、単価は2%下回った。</p> <p>品目別には、冷えび、冷さけは海外の需要が強く、単価が上回ったことから、国内需要が低下し、入荷量は下回った。</p> <p>9月の冷凍魚は、引き続き海外の需要が堅調であることから、多くの魚種で現状の価格まま推移する見込みである。また、冷さばは国内外ともに端境期に向かい、水揚げが少ない大型サイズを中心に不足気味になる。</p>

<p>加 工 水 産 物</p>	<p>8月の加工水産物の入荷量は、前年同月と比べ8%下回り、単価は2%上回った。</p> <p>品目別には、塩さば、塩銀さけ、開干あじは入荷量が下回り、単価は上回った。</p> <p>9月は、底引網漁が解禁となり、干かれい類の入荷が増えてくる。また、京都で親しまれているささかれい、かますの一夜干しの新物もこれから増えるので、毎日のおかずに、旬の魚を楽しんでいただきたい。</p>
------------------	--

※鮮魚には、貝類、淡水魚を含む。

品 目	市 況 の 概 要
(鮮魚主要品目)	
ま あ じ	京都, 和歌山で水揚げされたものが主体となる入荷で, 入荷量は前年同月と比べ7%下回り, 単価は4%上回った。
ま い わ し	大阪, 愛知で水揚げされたものが主体となる入荷で, 入荷量, 単価とも前年同月並みであった。
さ ば	石川, 和歌山で水揚げされたものが主体となる入荷で, 入荷量は前年同月と比べ44%上回り, 単価は19%下回った。
す る め い か	新潟, 北海道で水揚げされたものが主体となる入荷で, 入荷量は前年同月と比べ9%下回り, 単価は10%上回った。
太 物	入荷量は前年同月と比べ4%下回り, 良品物が入荷が減少したことから単価は4%下回った。
は も (近)	愛媛, 徳島で水揚げされたものが主体となる入荷で, 入荷量は前年同月並みで, 脂の乗りの良い物が少なかったため単価は3%下回った。
か ま す	長崎, 愛媛で水揚げされたものが主体となる入荷で, 入荷量は前年同月と比べ4%下回り, 小型物が多かったため単価は10%下回った。
(冷凍魚主要品目)	
冷 さ ば	入荷量は前年同月と比べ30%下回り, 単価は11%上回った。
冷 す る め い か	入荷量は前年同月と比べ54%下回り, 単価は40%上回った。

<p>(加工水産物主要品目)</p> <p>塩 さ け</p> <p>塩 さ ば</p>	<p>入荷量は前年同月と比べ3%下回り、単価は17%上回った。</p> <p>入荷量は前年同月と比べ16%下回り、単価は2%上回った。</p>
--	---